

令和5年度 布佐中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

4月18日（火）に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査（国語・数学・英語・アンケート）の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

○令和5年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

【国語】

「話すこと・聞くこと」の分野では昨年より成績が向上している。しかしながら「情報の扱い方」「言語活動」については昨年より下がっている。読書に触れる機会が少なく、読み取る力を学習する機会が少なくなっているという現状があるため、学校でも図書推進を図りたい。家庭学習の習慣を高め、漢字学習の定着、語彙力をさらに増やすことで国語力が高まると考える。

【数学】

- ①「数と式」の分野は、他に比べ高い傾向にある。
- ②「図形の分野」のような筋道立てて推論するような、いくつかの段階を踏むようなものや、「データの活用」のようなデータを読み取って思考するものに課題がある。
- ③今後は、基本的な計算技能においても、なぜそうなるのか、などの思考力に磨きをかけ、授業中の中での教え合いを活発に行うことも大切にしていきたい。

【英語】

「書くこと」に関する項目が県や全国と比べると低い傾向がある。英作文のような記述式問題においては、語彙力の習得に加え、文構造への理解が不足している面が数値へ反映されていると考えられる。授業においては、意欲的に学習に取り組める生徒が多いので、語句が文章上でどのように活用され、表現されているのかを考えながら学習を進めていきたい。

【アンケート】

小中一貫教育を推進する中で「活動と協同のある授業」へ向けての授業改善を積み重ねてきたことに加え、昨年度に引き続きICT等を活用した「個別最適な学び」「協同的な学び」を実現するために、授業への改革を進めるなど、研究と修養に努めてきたことが、チャートにもよくあらわれている。

今後の課題としては、学校で出された課題はしっかりと行えるが、自ら課題を見つけて学習できるような、より効果的な方法を検討していく必要がある。

II. 改善目標

- ・「知識・技能」の習得に向けた主体的な学習習慣を身に着けさせる。
- ・「思考力：判断力・表現力」の向上に向けた「活動と協同のある授業」が推進できる効果的なICT活用方法を探す。

III. 改善方策

- ・生徒の意欲を喚起し、「学び合い」が成立する学習課題のあり方について校内研修や相互授業参

観などを通して学び、実践に生かす。

- ・朝学習を全校体制で行い。生徒の「思考力・判断力・表現力」を伸ばす取り組みを充実させるとともに、「知識・技能」の定着に向けた活動を補充する。
- ・「学力向上」に向けた小中一貫教育を推進しながら、発達段階に応じた系統的指導（授業・家庭学習・言語活動・学習規律等）を進めていく。小小間や小中間、中学校でも学年間の共通理解を図り、それぞれの取組に差異が出ないように、同じベクトルを向いた指導を徹底する。
- ・ICTの効果的な活用のための校内研修を進める。

IV. 検証方法

- ・全国学力・学習状況調査結果の分析
- ・授業の振り返りで主体的な学習ができているかの確認
- ・定期テストや小テストでの確認
- ・保護者アンケート
- ・学校運営協議会会議
- ・職員による自己評価アンケート